

## 書塾の仲間たち

第 257 回

### 大橋習字書き方教室（福岡県福岡市南区）



#### ●書塾からひとこと●

昨年、この教室を始めて一年が経ちました。徐々に生徒さんも増え、毎週元気をもらっています。私は幼少期に習字を習っていました。が、当時は親に行かされている気持ちで強く、習字が好きではありませんでした。ですが大人になりきれいな字のありがたみを痛感したことから、生徒さんたちにも字がきれいでよかった、習字は楽しい、と思ってもらえる教室にしたいと心がけて指導をしています。

きれいに字が書けた生徒さんの嬉しそうな顔を見ると、私も嬉しくなります。近年は学校の授業もタブレット端末が主流になった関係か、書き順や止め、はね、はらいがわからない子どもが増えているように感じます。子どもたちの日常生活もデジタル化してきていますが、文字を書くことにはリラックス効果があるようなので、少しでも文字にふれる時間を増やしてほしいと思っています。

以前、習い始めたばかりの生徒さんがお稽古中に涙を流したことがありました。教え方が悪かったのか、体調が優れなかったのかと心配しましたが、後からお母さまより、自分にもきれいな字が書けたことが嬉しくて泣いてしまったと連絡をいただき、きれいな字を書ける喜びを知ってもらえたことにとっても嬉しくなりました。

指導にあたって、多くの方に字を書くことの楽しさや喜びを伝えたいと思っています。お手本を見る力を付け、日本の伝統文化である「書」にふれ、芸術性や発想力、表現力、集中力を身に付けてほしいです。生徒さんが大人になった時、「習字を習っていてよかった」と思えるような指導をするために、これからも努めてまいります。

大橋習字書き方教室 釜堀 茜

※書塾に連絡したい方は事務局へお問い合わせください。

# 白馬

小五 竹下 果那



苦手なことう筆もがんばっています

東京都清瀬市立清瀬小学校五年 竹下 果那

私は、二年生の時に書道を習い始めました。先に習っていた姉から、教室で書いてきた上手な作品を見せてもらい、私も姉のようにきれいな字を書きたいと思ったことが、書道を始めたきっかけです。

最初は、書き方もよく分からなくて、勢いだけで書いてしまっていました。先生から、角は一度止めてから力強く曲がることや、とめ・はね・はらいについて細かく教えてもらってからは、意識して書くようにしています。

書道を始めて、一番うれしかったことは、席書大会に出場できたことです。大会で使う用具は、いつものものとは違い、大きい下じきや太い筆、条幅紙と初めて見るものばかりでした。練習の初めころはちゃんと書けているのか、とても不安になったけれど、たくさん練習するうちにだんだん自信を持てるような作品になってきました。本番では、広くてたくさんの方が見ている会場で書いたので、とてもきんちょうしました。それでも、練習の成果をはっきりすることができたと思います。来年も、席書大会に出場できるようにがんばりたいです。

これからの目標は、苦手なことう筆で一つでも級を上げられるように、お手本をよく見てゆっくり書くことです。そして、毛筆もお手本や組み立て方などの注意書きを読み込んでから書くようにしたいです。これからも大好きな書道を続けられるようにがんばります。

## 私と書写書道 第257回

# 感動

中三 守屋 青



書は心の鏡

東京都清瀬市立第三中学校三年 守屋 青

私は小学一年生の時に、書道教室に通い始めました。最初に書いた文字は「ほん」でした。いつものように鉛筆で書く時とは勝手が違って、苦労したのを覚えています。そんな時、先生が分かりやすく教えてくださったことがとても頭に入りやすく、字を書くことが特技と言えるほど上達しました。

字を書く時に大切にしていることは「集中すること」です。悩み事があったても、字を書く時はそのことだけに集中する。そうすると、雑念が吹き飛んで良い字が書けるように感じます。「書は心の鏡」と意識して字を書くようにしていますが、なかなか納得のいく字が書けない時もありました。そういう時は先生の助言と自分の字を照らし合わせて、「一枚書いたら一カ所良くなっていく」ことを目指して取り組みました。

練習を積み重ねるにつれて、字を褒められたり、月刊「書写書道」の級が上がるようになりました。自分の作品が写真版に掲載された時はとても嬉しかったです。自分の自信にもつながり、また掲載されるように頑張ろうと思えました。小学校での書初め展では培った力を生かし、毎年賞をいただくことができました。中学校には展覧会はありませんが、書写の授業を頑張っています。

字を書くことが好きになれたのは八年間の書道教室の経験のおかげです。だから、私はもっと書道について深めたいです。私の今の目標は初段に合格することです。字を上達させて、自分の将来に生かせるように、自分の字に誇りを持ち、これからも練習を続けようと思います。